連載・イベント

チャレンジする Someone NEWS ～挑戦者の履歴書

第⑥回

小野寺 直 氏

――歴史は、過去と現在の対話である

（国体南朝111代当主、（一財）大日本国国体府代表理事）

一般社団法人 洸楓座
一般社団法人 efco.jp
代表理事 佐藤 建吉

▼出会いと注目

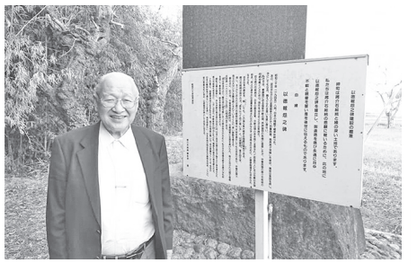
今年4月9日、英国女王の夫、フィリップ陛下（エディンバラ公）が99歳10カ月で崩御された。ギリシアの王家に1921年に誕生し、1952年に女王の即位とともに王家の存立に務めてこられた。ウインザー城で公務し、同城で旅立たれた。王権は女王が持ち、フィリップ殿下はその補佐の立場であった。殿下は、英国と欧州、そして何よりも王室の安寧を望むのが求めた人生となった。

日本の歴史においても、安寧をいまは陰から望んでいる人物がいる。今回、紹介する小野寺直氏（1945年1月～）である。後醍醐天皇の正裔で南主、第111代当主の方である。小野寺氏は、明治維新の時に仙台藩により擁立された通称、東武皇帝の曾孫にあたる。同氏を知る人は少ない。知ればその存在の大きさに驚愕である。現在の天皇家（政体天皇）と双璧をなす家系であるからである。

日本の歴史を見ると、誤解や不可解な点があり、明確にしなければならない事由が内在する。英国でも日本でも史実とは異なる事柄がある。副題に掲げた「歴史とは、過去と現在の対話である」は英国の歴史学者、EHカーのコメントであるが、小野寺氏のための言葉とも感じられる。

筆者が同氏の存在を知ったのは6年ほど前になる。まず、その辺りから紐解いていきたい。

小野寺直氏の近影



▼石飛氏による紹介

筆者は新橋駅前の国際善隣会館に一般社団法人洸楓座を登録し事務所をもつ。その国際善隣協会の会員でもあり、地域振興や自然エネルギー普及、さらには文化芸能活動などを行っている。同協会に入会を勧めてくれたのは、週刊誌『女性自身』の元記者であり演劇人でもある、石飛仁氏である。同氏は、ルポライターとして、花岡事件をライフワークにしている。その石飛氏が、2016年に、大船駅下車の本門寺で、葛飾北斎にまつわる展示を行うので一緒に行こうとのことだった。こうして本門寺に初めて伺った。当日は、古式豊かな祭礼があり、また記念講演などもあった。筆者にとっては、非日常の出来事を体験した。閉会後、石飛氏はじめ数名ほどでの2次会が開催された。そこで身近に、小野寺氏の人生、そして立場を知ることが出来た。

その後、何度か本門寺を訪ねた。時には、筆者だけで伺うこともあり、いろいろの背景や史実を教えて頂いた。さらに話だけでなく書籍や記録などの文献を頂き、関係する日本史の勉強も始めた。しかし、小野寺氏のルーツに関わる南北朝は、登場する天子たちの縁戚閨閥や宮城の在所・地名などが複雑であり、しかも策略や思惑、その結果が混迷であり入門者は理解できない。

先述の石飛氏は、「天の下つくらしし大神の御門」ここにあり、故に三刀屋という」と謂れのある島根県の三刀屋の生まれで、日本のルーツを調べる東京東アジア文化交流会を主宰している。同氏は、『日本主義』という季刊誌に調査論文を多数発表しているが、2009年秋には、『君は東武天皇を知っているか?』という小野寺直氏について詳細に紹介している。

▼三種の神器は天皇家の証拠

小野寺氏の立場は、天皇や皇族に関わるが、参考にした本や文献では、次の記述がある。

＊政体天皇＝覇者に依って、政治に都合良く擁立された天皇

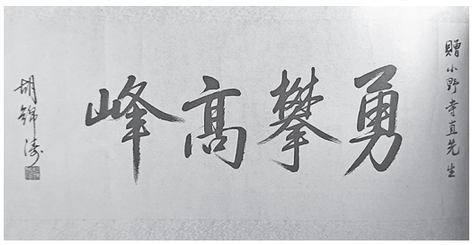
＊国体天皇＝三種神器を継承、万世一系を保つ本来の天皇

さらに説明がある。「三種の神器」を継承した者のみが天皇家の本家となり、失った者は継承者の資格を失う。神器には、神璽「しんじ」（勾玉）、剣、鏡がある。剣は血統（父系）の象徴、神璽は国権太陽神での象徴で、胎児のカタチをしている。鏡は、自分の顔が映り、天皇として父母の血脈を受けた自分の顔という意味が重ねられている。

伺ったあるとき、文献に掲載されている勾玉や剣、印璽「いんじ」（天皇の印）、古文書などの実物を見せて頂いた。

小野寺氏の書籍によれば、「剣」は天叢雲剣「あめのむらくものつるぎ」と壺居剣「つぼいのつるぎ」の二つ一組を所有し、「神璽」は八尺瓊勾玉「やさかにのまがたま」、勾玉が大小一組（スメル皇帝が所持し以来その血脈において代々継承してきた。）、また「鏡」は八咫御鏡「やたのみかがみ」の一つ（古代日本の天皇が所持しその血脈において代々継承してきた。）と記載されている。

胡錦濤主席から送られた書「勇挙高峰」



▼南・北皇統問題

天皇権のシンボルである「三種の神器」を小野寺直氏は所持しているが、政体天皇が持っているという神器は、誰も見たことがないばかりか、見てはならないものとされているという。それで、自身が所持している神器を公開して、真偽の疑問を取り払うことにしているという。

実は、明治44年3月に、枢密院は「南朝正統」を決議している。これは、議長が山縣有朋、総理大臣が桂太郎、提案者・犬養毅ほか88名により、議決され、官報に記載され、各都道府県に通達されている事実がある。しかしこれは守られず、解決のために大飼内閣は、満州に理想の国家を建設し、南主を奉戴しようとした。しかし、犬養総理は5・15事件で暗殺され、その後、開戦、敗戦となった。そして新憲法の制定で、南・北皇統問題は、正しく解決されてはいない。この辺の事情は、むしろ中国では理解しており、胡錦濤国家主席は、2008年、小野寺直氏に、「勇挙高峰」（共に険しい高い山を目指し登ろう）を揮毫し贈っている。

小野寺氏は、現在の様子を達観し、「天皇は権力ではなく、権威の象徴である。」と、自著に書いている。

▼東日本大震災は領民の苦難

小野寺氏には、筆者の活動においても「権威」をいただいている。今年、3月11日は、東日本大震災の10年目にあたり、全国で記念の行事が行われた。筆者の運営する洸楓座でも、記念行事を行った。再度、洸楓座の説明になるが、「洸」のさんずいが水力を、旁の光が太陽光を、「楓」の木偏がバイオマス、旁の風が風力を、「座」の土が地熱を、二つの人は、上記5つの自然エネルギーを進める人々の意味を表している。そこで、東日本大震災での犠牲者を鎮魂し、自然エネルギーの利用を進め脱原発にすることが究極の防災対策であるという趣旨から、記念イベントを開催した。

3.11東日本大震災の10年目の講話と読経

その鎮魂と黙祷の祭祀を小野寺氏にお願いした。千葉県には誕生寺があり日蓮宗の僧侶は多い。しかし、東日本大震災は、仙台をはじめとする東北の被害であった。この鎮魂には、仙台藩に所縁のある小野寺氏が最適であると思い、大船に出向き依頼した。快諾して頂き当日を迎えた。いすみ市では鳥ウイルスの感染もあり、また新型コロナ感染症も発生しており、小野寺氏には、「命の大切さ」について、講話して頂き、さらに311の地震が発生した14時46分に、黙祷を先導して頂いた。

南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経

当日は快晴。太平洋の青い海原を前に、周囲に同氏の読経、とくに「南無」の発辞が響いた。天皇は国籍も、姓も持たない。いま小野寺氏は、仮の姓と大日本の歴史観を持って生きている。

【文献】

①石飛仁、『君は「東武天皇」を知っているか』、日本主義［第7号］（2009／秋）
②小野寺直、『世界の盟主 大日本皇統とは』大日本璽府広報出版局、（2012）
③小野寺直、『もうひとりの天皇』成甲書房、（2015）
④小野寺直・吉田日光、『日蓮大聖人 法華経の真実』、白陽社、（2017）